

学校規模適正化第2期実施計画（案） 青山台連合自治会説明会

- 1 日 時 平成18年1月28日（土）
午後7時30分～午後9時
- 2 場 所 青山台市民ホール
- 3 出席者 青山台連合自治会関係団体代表者 18名
吹田市教育委員会 理事 北野 徹義
教育企画人権室 室長 京江 民治
学校教育部 総括参事 高橋 一秀
教育企画人権室 参事 本田 正勝
教育総務課 廣瀬 康彦
- 4 進 行
 - (1) 北野理事挨拶
 - (2) 高橋総括参事 配布資料「学校規模の適正化を進めます」「第2期学校規模適正化事業実施計画（案）検討概要」「適正化に向けての4案の評価比較表」に基づき説明
 - (3) 質疑応答
- 5 質疑応答の要旨等
※ 発言者について
青山台連合自治会関係団体代表者・・・発言者の順にアルファベットで表記
教育委員会事務局・・・・・・・・・・「教」で表記

発言者A氏

A 平成19年度から実施しようという案ですが、まず2年前に聞いたのと同じです、ちょっと付け足しはありますが。2年掛かってできなかったものが、これではそういう時の原因というのが、理由が何だったのかということです。それが、この案では解消されているというふうに思ってもらえるかどうか。私が思うには、ここに書いてあったけれども、結局は北千里小学校を分断しないしてほしいという、北千里小学校のPTAか何かその辺の人が大きな理由ではないかと思うんです。今まで2年間掛かって、結局実現していないのは。それで、そんなことを言っていたら、いつまで経ってもできません、どんな案を作ったとしても。そういうのが、今度の案では分断することを解消しますということには結局はなっていないわけです。分断は分断です。それを割り切れというのなら、2年掛からなくても今までだって、もっと強い決意で自信を持って教育委員会が言ってきたらいいわけですよ。結局は、私は分断をしたらいけないというのは、センチメンタリズムだと思います。それを捨て去れと言わないと、教育委

員会の委員長ぐらいがそのぐらい前に出てきて、そういうことでないと、この問題はいつまで経っても同じことを「ああでもない、こうでもない。」と言っているだけだと思います。その決意です、あなた方の。そのぐらいのつもりで行って、泥をかぶってもいいから「そうする。」というぐらいに言ってもらわないと「この案でどうですか。」なんて言っていたのではアカンと思います。それだけです。

発言者B氏

B 地域で説明される前に、各小学校のPTAに説明されたように聞いているわけですが、その説明された内容において、進歩しているんですか。その詳細をお聞かせいただきたいんですが。

教 最初にA氏の方から、1つは教育委員会が泥をかぶってでも強い決意表明をして、進めたらいいのではないかと、ある意味激励のお言葉をいただいていると思うんですけれども、我々といたしましても、泥をかぶるとかそういうことにつきましては、もちろん、やぶさかではございませんし、そういうことについては表明していこうという決意はあるわけなんですけれども、なにぶん、学校を廃校にするということにつきましては、そこに通われておられる子どもさんであるとか、父兄の方にとりましては、やはり心情的な部分では、無くしてほしくないという気持ちは、教育委員会としても十分汲んでいかなければならないことではないかと思うんです。だから、我々としましては、できるだけ理解を得ながら物事を進めたいと考えておりまして、実は平成16年度に検討委員会をさせていただいて、意見がまとまれば、我々としても実施をする予定でございましたけれども、残念ながら、その検討委員会をやった中では、私が聞いている範囲では、非常に町のコミュニティを壊すと言いますか、今まで挨拶をしてきた地域の方々が今もいがみ合うような形になってしまったことも聞いておりますので、我々としても強い気持ちで臨めということは十分理解するわけですが、このことによって地域のコミュニティが壊れることでは、今後の子どもたちの地域の中で生活していくということの中では、マイナス面もございますので、できるだけ説明を重ねて、理解を得るということで、若干時間は掛かってきますけれども、やはりそういうことで臨んで行きたいと思います。それから、B氏からご質問をいただいた件につきましては、それぞれ3つのPTA（北小・古小・青小）で説明会をやってきました。それで、やはり最も当事者でございます北千里小学校PTAが参加人数も多くて、あとは青山台小学校と古江台小学校PTAの方々については、それぞれ意見としても、それほど、まあ何と言いますか、進めてほしいという意見が中心で、反対ということは無いわけですが、北千里小学校PTAの方々のご意見を聞く中では、やはり質問をされた方が大半反対ということをベースにおっしゃいました。それで、その意見については、これまでそれぞれ特別部会でありますとか、検討委員会で述べておられる各委員さんの意見とそれほど異なった、新たな展開ということではなく、こ

れまでどおりの考え方で、要は北千里小学校にとっては、今回、こういう形で適正化を実施をしても、我々にとっては何のメリットもない、我々の学校は今ならば規模としては適正なんだと。だから、適正である規模の学校をなぜ廃校にするのかということについての、不満というか、その辺のご理解が得られていない。そういうことでもって反対表明をこの前はされているという状況です。

B 反対表明をされているからといって、それを押し進めていく自信はあるわけなんですね。また同じことの繰り返しをされるということは、我々としては考えられないわけですね。だから、やはり教育委員会として、きちっと、今ご意見も出ましたように、やはり押し進めていくという自信がなければ、案というものを二度同じものを出してきて、その辺を強く我々としてはお聞きしたいわけなんです。これは校区変更でしょうから、教育委員会の裁量でできると思います、聞いている範囲では。一部私も議会の人たちにいろいろ入って行きますけれども、議会の中でもいろいろと異論を唱えている議員さんもいるようですし、北千里小学校のいろいろ意見を聞いて、それに従ってというような形でしょうか、教育委員会にもいろんなそういう雑音が入ってくるんじゃないかと思えますけど、そういったいろんなことを打ち破ってやっていくんだという、その覚悟があって取り組んでおられるんじゃないかと思えますけど、その辺をちょっと聞かせてください。

教 まず最初に、今回の校区変更が教育委員会の一存でできるのではないかということにつきましてお答えをしたいんですけども、我々が考えておりますのは、先ほども説明をしましたように、最終的には北千里小学校を廃校にするということになって参ります。そうしますと、これは今のスケジュールで行きますと、来年の1月にそれぞれ青山台1丁目、古江台3丁目の子どもさんに対しまして、就学通知を出す必要がございます。それぞれこの学校に行くかという。そうしますと、我々のスケジュールで行きますと、就学通知を出すためには、今年の12月議会に北千里小学校を廃校にしなければ、新しい就学通知を出すことはできませんので、廃校にするということになりましたら、これは条例改正になりますので、我々教育委員会の一存だけでできるということにはなりません。ただ、校区変更だけということでしたら、例えば、極端な例で言いますと、青山台1丁目だけを青山台小学校にして、北千里小学校がそのまま残るといった案でしたら、これは校区変更ですので、教育委員会の一存でできるわけですけれども、我々は青山台1丁目と古江台3丁目のことを考えておりますので、我々の案としては条例改正になるということがございますので、これは議会の承認が必要であります。それで、地元の議員さんにもいろいろお願いをしておりますし、当然このことに関心をお持ちの他の議員さんもおられますので、議会の承認を得るという手続きを踏むためには、できるだけ説明会を多く開催をして、それぞれの地区の方に納得していただくという努力を我々が汗をかいて、そうすることが議会の承認を得られることにつながるのではないかと考えております。それから、今回、再度代替案とい

うことで提案をさせていただいたわけなんですけれども、私は実は4月に新たにこの仕事を担当することになったわけですが、私自身も先ほど4案の説明をいたしましたけれども、いろいろ教育委員会の中でも検討をする中で、やはり青山台小学校の過小化を無くし、更にこれまでの調整校として北千里小学校が30年の経過があるわけなんですけれども、やはり地域の地区割りと校区が、要するにクロスをしているという複雑な形になっておますので、今回、そういうことも解消を図りたいということでございますので、これが一番ベストであるという形で教育委員会は臨んでいるわけですので、我々としては、この代替案でもって説明をしていきたいと考えております。

発言者C氏

C この種の会合は今日が初めてなんです、第1回目（原案）と今日の内容（代替案）は同じようだという事は、教育委員会の方が考えて、これが一番みんなに納得してもらえる案だろうということで、再度出しておられる。これはもったいなことだと思いますし、今日始めて出席したわけですが、人の流れというか、（北千里小学校PTAの方々とは）だいたい25歳から30歳ぐらいの差あるわけです。そうすると、30年に一度ぐらいは、いろんな問題が生じてきて、昔でしたら、親から子、子から孫ということが、今は親と同居しないという形の所帯がほとんどになったので、新しい建物とか地区の面積は一緒ですから、その建物自体に若い者がまた入ってこられて、若い所帯ができるというようなことが無い限り、だんだん減ってきて今の状態が同じように続くと思うんです。それで、この際、第1案をよく考えてみると、一番いいことは、同じ校区で1年生から6年生までいって、次にちょうどやんちゃ盛りの小学6年から、今度中学1年に入る時に、代わった校区に行く、友達が少ないと。非常に子どもたちが少ない時代ですから、あまり知らないところに、ちょうどやんちゃ盛りの中学1年生が、学校を代わって、2、3名しか入らなかったとか。ところが地元で1年生からずっと同じ学校を卒業した同級生がずっと上がってくると、仲間がいるということですね。そういうことから考えると、やはり、校区は1つの1校区で、1つの学校からずっと同じような形で進学していく方が、子どもたちの心というか、そういうものが中学で悪が出来たり、2年生で悪くなったりということが、非常に少ないと思います。それから、北千里小学校が30年ぐらい前に造られたというんですが、30年経つと人口の移り変わりが、ちょうど減少しているの、いつまでも北千里小学校をおいておくのは、逆にずっと無駄が続いていくというふうには考えられます。それで、北千里小学校を廃校にしようということに反対とするその気持ちはわからないことはないんです。やはり、母校が無くなったということは、その方たちは非常に辛いというか、思い入れが無くなっていくという気持ちはわからないでもないんですが、私は75歳ぐらいになるんですが、母校は無くなりました。それでも、母校跡地ということで、石でその跡地をいつまでも残すというような方法で、1つは寂しさを思い出の

石1つでいくらか解決することができると思うんです。ずっと長い今後の時代を考えるとやはりこの第1案が、私は非常に優れている案だと思います。反対の人は反対でわからないことはないんですが、しかし一番いい案が私は第1案だと思いますので、できればこういう形で進めていただければと思います。以上です。

発言者D氏

D 何か変えようとか改革しようとしたら、必ず抵抗勢力が出てきます。郵政の民営化でもそうですが、必ず抵抗勢力が出てきます。それで、反対ばかり聞いていたら何も進まないわけです。やるためにはどうしたらいいかということで考えていかないと。だから、今度の案は（原案に）付加して、いくらかでもやれるようなことを追加されていると思うんですけれども。だから、やるためにはどうしたらいいんだろう。やれない理由ばかり聞いていたら、どこへも進まない。私は会社時代にいろいろ、そういう今のようなりストラとは言わないんですが、合理化とか効率化をやっている時に、できない理由ばかり言っていたら、できるはず無いんで、やるためにどうしたらいいかということで推し進めてきました。だから、抵抗勢力というのは必ず出てくる。これは人間の歴史始まって以来そうです。何か変えようと思ったら、必ず抵抗します。それをまず、抑えるか切るか何かしていかないとアカンということを言っておきます。

発言者E氏

E 今日、1回目の出席なんですが、これは質問になるんですが、私が何十年か前に子どものPTAの役員をしておりました時に、ちょうど青山台小学校と古江台小学校の児童数が過密になりまして、校舎の中の廊下で児童どうしがぶつかってケガが絶え間なく、保健室がいつも満員という状態がありました折に、私たち役員が発起人になりまして、過密調整校というのを請願運動をして参りました。それで、その時の状況を私は目の当たりにしてきたわけですが、PTAをあげて請願運動とかいろいろやりまして、その甲斐がありまして、過密調整校としてできたのが今の北千里小学校の訳なのです。従いまして、その時の条件としましては、過密が解消されれば当然、北千里小学校の役目は終わるということで、必然的に北千里小学校は廃校になるということで、私たちは運動もして、そういう理解をして参りました。それで、当然、何十年間か時代が流れまして、子どもたちの児童数が減り、過密調整校としての役目は今もう北千里小学校は終わったということですよ。そうしたら、当然北千里小学校が廃校になるとするのは私の認識の中では当然という意味合いで思っております。それで、その辺の認識というか、北千里小学校が過密調整校としての意味を持って建てられた、その辺の行政としての引継ぎというか、認識というのはその後、そこら辺どういうふうなことになっていたんでしょうね。今になってそこら辺の引継ぎがきちりできていたら、こんなに揉めることも何もなく、スムーズに行っただけではないかと今不思議

議な気さえしているんです。その辺の引継ぎとか行政の流れというか、ちょっとそこら辺が質問なのですが。以上です。

教 今おっしゃったとおりでございまして、古くから住んでおられる方、この地域だけでなく、他の地域でもその北千里小学校ができた経過を知っておられる方は、みんなそういうご意見なんです。当然、解消されて当たり前だろうというご意見なんです。もちろん教育委員会でも、そういうことで北千里小学校を造ってきた経過がございしますので、あの当時、その過密を解消するために、今の学校環境から考えたら、校舎と校庭が離れているという、これは本当は考えられないんですけども、あの当時の過密を解消するためにはあそこしか土地が無いということですので、それをあえて、あそこに造ったと。それから、例えば青山台小学校とか古江台小学校は平屋であるとか、せいぜい2階建てですけども、(北千里小学校は) 過密のために4階建てとかそういうことになっておって、今の小学校では、例えば障害児が北千里小学校に行くということでも非常に困難な、そういう構造になっているわけです。だけれども、それはあの当時のことでしたので、それは仕方がないということで来たわけですが、ただ、残念ながら、今の古江台3丁目は当時はほとんど社宅だったんです。それで、人の入れ替わりがいろいろございまして、今そこがマンションになってしまって、この地域の歴史とかそういうことではなくて、新しい方がどんどんお入りになりまして、そういう昔のことを説明しましても、「それは知らない、聞いていない。」とそういうことになってしまいますので、だから、そういう経過も含めて我々としては、「こういうことですよ。」という説明をさせていただいて、それで理解を得ていくという、それがやはり若干時間は掛かっているというお叱りも受けておりますけれども、やはり今日日のことですので、そういうふうにして行きたいと思っております。

発言者F氏

F まず一点。北千里小の反対があつて、それを何とかしていったというお話での原案でございしますが、もしも、議会に通らなかった場合、どうなさいますか。今そこまで考えてらっしゃるかということですね。青山台だけでも取りまとめて、校区変更を教育委員会がなさるかどうか。できればそこら辺ぐらひは腹をくくっておかないといかんのではないですか。もう一つは、青山台小学校の例の校舎の問題とかそこら辺の建替えの問題ですが、これをどうなさるか。もう一つは、(北小の子どもたちを) 迎え入れる中のソフトの問題ですが、ここのところを(配付した資料「学校規模適正化を進めます」の中に) 簡単には書いていらっしゃいますが、連絡協議会か何かをするということですが、よほどここのところを今から早急に考えないと難しいと思いますが、そこら辺の人の手当て、要するに良い人材が入って、それと、学校における協議会での打ち合わせでどういう小学校にしていくのかというソフトの問題ですが、これはもう真剣に今から考えないといけないと思います。教育全体のことを考えてです。私

なんかはどちらかと言いますと、この小さな学校ですから、できることなら、吹田のモデル校なり大阪のモデル校なりの形をやれば取れると思うんです。できればそういうふうなある意味ではこの青山台小学校が40何年前にできまして、初代校長が大変力を入れて、お造りになったぐらいの、ソフトをぜひともお考えいただく時期ではないかと思いますが。ぜひともよろしくお願ひしたいんですが。以上です。

教 1 番目の議会が通らなければどうするのかということにつきましては、今日は勘弁をしていただきたいと思います。それから、校舎につきましては、非常に我々としましても、懸案事項であると考えておりまして、今回、アスベストの関係もありますので、一部校舎につきましては、予算を掛けまして整備をする予定にはしております。しかし、それは一部改修でしか過ぎませんので、おっしゃっておりますような、外観を含めてどうするかということにつきましては、これはやはり大規模改修をしていかなければならないだろうと、一つの懸案事項だと思っておりますので、これはやはり地域のみなさん方の熱い思いをぜひとも寄せていただいて、みなさん方の応援をいただく中で、予算を取っていかなければいけないだろうと、なかなか教育委員会サイドだけで改修をするというのは、非常に吹田の財政も逼迫しておりますので、やはり地域のみなさんの熱い思いを是非とも寄せていただく中で、教育委員会が一体となって、予算を獲得しなければならないことではないかと思っております。

教 ソフトの面につきましては、先ほども若干、説明の方で述べましたけれども、小・中一貫の教育を吹田市が全地域で進めておりますが、今ご存知のように、竹見台中学校ブロックが1小学校、1中学校で緊密な連携ということで、人員配置を多くしまして、どのような連携の仕方があるのかの取り組みについて研究を進めております。ただ、吹田市が一番ベースにありますのが、1中学校、2小学校の行程になっております。そういう面につきましては、まだ竹見台中学校ブロックの研究が十分に活かされたとは言えませんので、今回、こういう形でもしも青山台中学校ブロックで、まず研究が進みましたら、人員配置等も考えながら、吹田市全体に影響を及ぼすような研究体制を作っていきたいと考えております。具体的には、今年も青山台小学校につきましては、先生の数が本当に少ないです。7学級ですので、校長、教頭を入れて多分10人ぐらいだと思います。今後、もしも第1案どおり行きますと、平成19年にはもう少し人を配置できるような工夫を市から府の方に働き掛けて参りたいと思っております。その先生たちを使いながら、小・中一貫を進めて行きたいと考えています。小・中一貫を進めますと、6年生から中学校に上がる時に子どもたちがすごく教育環境が変わります。今までは1人の先生が全教科を教えていましたけれども、中学校に行きますと教科ごとになります。その中で子どもたちがすごく戸惑いが生じて、不登校であるとか、いじめの問題が生じて参りますけれども、そういった問題を解消するためにも、クラスの担任以外の先生を何人か配置することで、教科の担任制を小学校の間から導入したいということで、子どもたちがスムーズに中学校に行っても、勉強がで

きるような体制の研究を進めて行きたいと思っております。今も実際には、青山台ブロックではいきいきスクールというのをしているんですけども、中学校の方から小学校の方に先生が行ったりという交流についても、今後ますます進めて行きたいと考えています。以上です。

発言者G氏

G この計画案というものは、いつ頃をメドに説明を終了するんですか。それが1点と、その時点で、仮に平成19年度からという形で実施されるのであれば、要するに、校舎の改築というのができるかどうか、校舎だけではなくして、聞くとところによると、給食設備の改築がやはり必要になってくると思いますし、その辺のところは間に合うのかということです。仮に（今年の）12月の議会ということになりますと、とても平成19年度には間に合わないのではないですか。ということは、いつもお聞きするのは、夏休みでないと改築できないとお聞きしているわけです。その辺のことをどういうふうにお考えなのかちょっとお伺いしたいと思います。

教 教室の改修、それから給食施設の改修のご質問ですけども、これにつきましては、平成18年度の予算で、予算化をしまして、児童数が増える、学級数が増えるということに対応する施設整備と給食設備の改修については、平成18年度でやって参りたいと思っております。もちろん、今我々が目標としておりますのが、平成19年4月からの実施ということですので、その時点で北千里小学校の子どもたちが青山台小学校に来るけれども、実際に教室が改修されていないというような状況では大変なことになりますので、その部分については、平成18年度に改修をするために、今予算の時期なんですけれども、担当課と最終に近い段階で話を付けさせていただいているという現状でございます。

教 （いつ頃をメドに説明を終了するかについて、）先ほども、スケジュールで述べたんですけども、我々のスケジュールといたしましては、12月議会で条例を改正をいたしますので、それ以前に条例提案をするために、市長部局の了解を取る必要があります。それで、手続き上は更にその前に教育委員会でこのことについて、議決をいただく、要するに教育委員さんの了承を取る必要がありますので、我々の今のスケジュールで行きますと、夏から秋までには、教育委員さんの了解を取りまして、それで、市長部局と相談をして、12月に条例提案をして参りたい。だから、説明会については、夏ぐらいまでには終わりたいと考えております。

G この前の検討委員会の中で出てきた人は、各小学校区に、学校の改築についての検討委員会というのを設けようではないかという案が出ました。今度、校舎をどのように改築されるかということについては、そういうことはもう無いわけですか。ということは、開かれる学校だと言って、地域も学校に参加しなさいということをおっしゃっているにもかかわらず、自分の前からある、そういうものについての、校舎がどの

ようになっていくのかということについても、地域の意見を取り入れて行くなれば、やはり、早くからそういう提案をしていかなければならないのではないかと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

教 今回、校舎等の改修につきましては、ともかく、平成19年4月に子どもたちを受け入れるための、最低必要な部分の改修をして行きたいと。それで、先ほどのご質問の中にもありましたように、学校全体を今後どういうふうに、地域のシンボルとして、改修していくのかということにつきましては、地域の熱いご要望等も踏まえまして、今後、我々が検討していかなければならないと思いますが、そういう状況になって参りましたら、委員会等の設置も視野に入れながら、どういう学校にしていくかという話になってくると思いますが、今、平成18年度の予算で進めようとしているのは、まず、ともかく、受入れの最低の条件を整えていこうということで準備をしているものでございます。

発言者H氏

H 今、北千里小学校の校区に青山台1丁目が入っているということなんですが、青山台1丁目、今年4月に入学する児童は何人ぐらいなのでしょう。それから、青山台小学校に1年から6年生まで行っている児童がどれぐらいいるのかということをお聞きしたいです。やはり、こういう少子化の状況ですから、大阪でも百数十年の歴史がある学校が消えて無くなっているというのがもう現状ですから、30年の歴史がある北千里小学校の気持ちはわかるんですが、やはり、私も40年前から青山台に住んでいますけれども、いわゆる千里青山台と言ったときに、1住区1小学校ということで、できた中で、やはり元に戻るわけですから、先ほどいろいろ、特に社宅が多かった古江台にどんどん入居された、千里の歴史を知らない新しい人たちへの理解のために、非常に時間を掛けて説明をするという状況はわかりますけれども、やはり、この少子化、それから、この青山台小学校や古江台小学校の現状を考えれば、やはり、原則として元に戻すということで早くやるべきだと思うんです。例えば、教育委員会で校区変更であれば簡単にできるが、廃校にする場合は条例を触る必要があるということであれば、教育委員会でやれる簡単なことは、もうその前に例えばやってしまうと、青山台1丁目はもう従来の青小に戻すというようなことで、1歩1歩先に進んで行くことができないのか。私は今日この話を初めて聞きましたけれども、この話によれば、もう何年も同じような話をしなくては、今、質問された方々のお話を伺っている中で、いったい何度同じ話をしているのかというようなお話も出ておりましたし、もうちょっとそういう形でしっかり考え方を前に出しながら進まないことであれば、1歩ずつ進めるようにされたらどうなのでしょう。これはもう、市町村の財政問題から始まって、いつまでも、これをずるずるしているような時代ではないのではないかと私は思います。以上です。

教 先ほども説明をしましたように、学校を無くす場合については条例改正になりますので、議会の承認がいるわけなんですけれども、仮に、おっしゃっているように、青山台1丁目だけの校区変更になれば、これは教育委員会の権限の中にありますので、教育委員会が判断すれば、もちろんできるわけなんですけれども、ただ、だからと言って簡単にといいことではなくて、やはり、十分に説明をし、ご理解を得る中で青山台1丁目を元に戻す。我々としても、そういう今おっしゃったようなご意見も、例えば、第3案を考えたときに、そういう案も我々教育委員会の中では出てきたわけです。青山台1丁目だけを校区変更して、北千里小学校を残してという意見もあったわけなんですけれども、そうすると、青山台小学校も単学級ができてしまい、残った北千里小学校も単学級ができてしまう。そうすると、我々の目的であります、過小化を解消するということが、2つとも過小化になってしまう可能性がありますので、順番でということでもわからないこともないんですけれども、青山台1丁目だけということになりますと、これは非常に難しい話ですので、やはり、我々は原案で臨みたいと考えております。

教 人数のご質問がございましたので、現在、青山台1丁目の平成17年5月1日現在の実数でございまして、青山台1丁目の今年の4月に1年生になる子どもの数が、青山台1丁目が16名、それ以降15名（19年）、17名（20年）、28名（21年）、19名（22年）、26名（23年）となっております。古江台3丁目の方は、今年1年生に上がる方が、平成17年5月1日現在で60名、以降33名（19年）、35名（20年）、44名（21年）、24名（22年）、36名（23年）という数字になっております。青山台1丁目の平成17年5月1日現在の1年生から6年生までが102名と、養護学級に行っておられる方が1名ですので、総トータルとしては103名になります。それで、古江台3丁目の方が同じく、235名で養護学級の方が4名おられますので、総トータル239名という数字になります。

発言者 I 氏

I 私の子どもは2人とも青山台小学校でお世話になったんですけれども、先ほど言われておりました、議会の承認うんぬんについては、議員さんの了承を当然取らなければならない。議員さんというのは、ご存知のとおり、あっちとこっちで言うことは、コロコロ変えるのは当たり前の世界なので、はっきり言いまして。ですから、教育委員会としては、なかなかそういう議員さんを説得することが難しいとしましたら、今、北千里小学校の廃止に反対している議員さんを、青山台に来てもらい、話をさせたらどうですか。一番早いと思いますよ。恐らくそうしたら、「それは青山台さんの言うことはそのとおりでございます。」と変えると思います。やはり、そういうのはうまく住民のパワーを利用しておやりにならないと、市役所の職員さんだけでは難しいと思います。なぜそんなことを言うかといいますと、私は30数年前に自治会長をさせてい

ただいたんですが、そのときに、その自治会の役員の中に、議員さんがおられたんです。そうすると、市の職員に対して威張り倒しているんです。それで、私が「そんなになぜ威張るの。」「威張るんだったら自治会の中で威張りなさいよ。」と言ったら、黙ってしまいましたけれども。そういうことではないかと思うんですけれども。余計なことですが、そういう、やはり一番問題はその議員さんをどう説得するかということならば、そういう方法が私はあると思うんです。過激な発言ですけれどもよろしく。

教 なかなかお答えし難いんですけれども、少し話しは外れるかもわかりませんが、今日は皆さん方は非常にご理解というか、我々教育委員会に対する応援団と言いますか、そういう形でご発言をいただいておりますので、我々としましては、非常に気持ちは、リラックスしている部分があるんですが、ただ、我々は一定の時期が来ましたら、地域全体の説明会もしていきたいと思っているんです。と言いますのは、昨日も市役所の方に電話が入ったんですけれども、自治会に入っておられない方がおられまして、そういう方々に対する説明もしてほしいというようなことがございます。それで、我々としましては、地域全体の説明会、これは去年も取り組みをしたんですけれども、残念ながら、ここでご発言になられたのはほとんど北千里小学校の保護者の方ばかりでありました。だから、大半が反対意見としますと、地域で説明会をやったときに賛成者がいなかったら、それを見ている議員さんは、「これはやはり迂闊に賛成できない。」というような印象をお持ちになる可能性があるわけです。だから、今日はお願いでございますけれども、いつかの時点で地域全体の説明会をしますので、そのときは是非ともみなさんこぞってご参加をいただきまして、強いアピールをしていただきたい、これはお願いでございますけれども、よろしく申し上げます。

発言者 J 氏

J 私のところも青山台1丁目ですから、子ども3人が北千里小学校を出ました。長男がちょうどこの当初の案のとおり北小と青小に分かれたときだったと思います。3人とも北小を出ましたから、情情的には本当にこの学校が無くなってしまうということは、私もPTAの活動をしたりして、とても懐かしい学校でございますので、とても寂しい気持ちがいたします。そして、ここ（適正化に向けての4案の評価比較表）の原案のようなところにも、マイナス評価のところ「廃校になることで母校の思い出やさびしさが募る。」これはお母様方や子どもたちもこの思いは当然だと思います。でも、やはり当初のこの案のとおり、先ほどどなたかがおっしゃったとおりで、そのようなことで、北小が始まったということでございますので、これは時代の流れで、今日は私も教育委員会の原案のとおり応援団の1人でございます。時代の流れで当然のことだと思います。そして、私も熊本の小学校を出まして、当然、学校がいろいろ分校ができたりいろいろなりました。ところが、今だに小学校の同窓会を5年おきに九州に戻りましてやっております。そして、私たちの学校がこんなだったとい

て、学校を見に行っただのは1度ぐらいでございます。5年おきの同窓会をやっています。それで、友達や仲間と同窓会を5年おきにやっておりますが、今だに先生が東京から1人と地元の熊本から1人、必ずそのクラス会の同窓会にも出てくださいます。ですから、学校が無くなってしまったということに関しては、今の子どもたちは、それに対してのこだわりというのは、現代っ子ですから、何か講じれば、そう思わないで済むのではないかと、今の子ですから。ですから、そう寂しさが募るとか、そういうことを言っている場合ではないんじゃないかと思うんです。ですから、先ほどからのみなさんのご意見のとおり、強い意志でもって前進していただかないと、なかなか難しいことではないかと。いちいち住民の意見とか、今までの卒業生のお母さんとか、今、マンションの人たちがここに学校が近いから引っ越して来たのにとか、そういう意見を考慮していったら、なかなか前進しないと思いますので、強い意志で私たちも応援団の中に入れていただかなければならないと思っております。以上です。

発言者K氏

K 先ほどのご説明の中で確認したいんですけども、青山台1丁目を校区変更した場合に、どちら（青小と北小）も過小校というご発言があったと思ったんですが、青山台小学校はその場合は単学級が1つできるかできないかということですが、もともとそういう形にするわけで、北千里小学校に単学級ができてしまうというご説明が正解だと思うんですが、そういうことでよろしいでしょうか。

教 そのとおりでございます。

K それとあともう一つですが、これはPTAという立場からしますと、北小の保護者の方の気持ちも理解できないわけではないんです。それで、非常にこれは教育委員会の組織的な問題もあるかと思うんですが、いわゆる、学校の規模だけを理由にすれば、青小の子どものために自分たち（北小）の子どもが犠牲になる。こういうような心情になるわけで、そうではなくて、小学校というのは地域の中の一機関であり、一施設である。そういう位置づけからしますと、北千里小学校が廃校になって、その保護者もしくは子ども、その地域に住んでいらっしゃる方に対してどういうメリットがあるか。そのメリットが、やはり見えなくて、今はデメリットのことばかり出てますんで。それもやさしくカバーして書いてありますけど、やはり当事者の立場だと、もっと厳しく受け止めるような内容だと思います。私が思うに、小学校の保護者とか関わり合いは、ここの中では確かに長いんですが、現実には6年間子どもを預けるんです。極端なことを言えば、自分たちの子どもが卒業してしまえば関係ないというふうに思われる方はやはりいると思うんですけども、この問題はそういうふうに考えると、ずっと永遠に続いていってしまっていて、やはり地域全体の問題として位置づけて、地域の住民にとってどういうメリット、デメリットがあるかとかということの総合的な対比表みたいなものがあると、非常にみなさんの、この教育委員会の規模適正化に対す

る案の理解度が高まるのではないかと感じます。ここら辺は、当然、組織的な問題があるかとは思いますが、できたらそういう比較があればいいかなと思います。これは意見です。